

詩

ふく とみ ただ お  
**福富忠雄**



下関市  
(1910～1984)

福富忠雄は、下関市豊浦町に生まれる。県立豊浦中学校を、病気で中退し、療養のかたわら文筆活動を行い、中央・地方を問わず多くの文芸誌に寄稿・投稿する。昭和初年、プロレタリア詩やシユールレアリスムのもてはやされた時代に、俳句的な自然観賞と郷土の風物に焦点を絞った、高踏的な詩を作った。昭和十三年には、詩友長谷執持と共同編集で本県最初の『山口県詩選』を刊行。温厚篤実な人柄は誰からも敬愛された。(和田 健)

【主な著作】

詩集『青蟹』

詩集『故郷の絵』(こだま詩社、昭和30年)

詩集『石庭のうた・秋のいろ』

(共著、詩帖社、昭和34年)